

添付資料

地域内フィーダー系統確保維持事業に  
関する取組・評価概要

令和2年1月

南 城 市

事業名：地域名フィーダー系統確保維持事業

協議会：南城市地域公共交通会議

評価対象期間 平成 30 年度：平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日

令和 元 年度：平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日

## 1 地域の概要

南城市は、平成 18 年 1 月 1 日に 1 町 3 村（佐敷町・知念村・玉城村・大里村）の合併により誕生し、令和 2 年 1 月に合併 15 年目を迎えた。沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南東へ 12km に位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西 18km、南北 8km の広がりを持ち、面積は 49.94km<sup>2</sup>、西側を除く三方が海岸線に接してはいるが、平坦地が少なく傾斜の多い地形となっている。

人口は 44,008 人（平成 31 年 3 月末）であり、平成 20 年以降増加傾向で推移している。

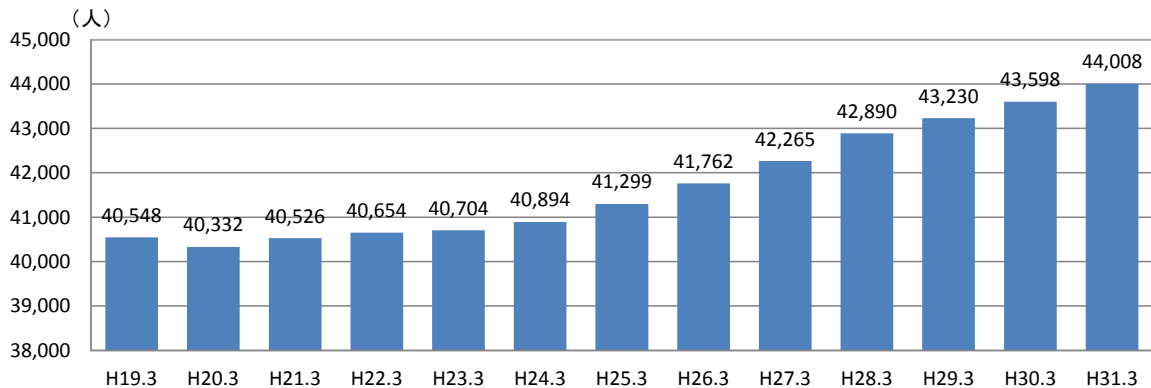


図-1. 南城市の人口推移

## 2 事業の背景、必要性

本市では、合併以降の人の流れに応じた路線バス網の見直しが行われなかったこともあり、公共交通の空白地域既存の路線バスで対応できないエリア、時間帯の移動を補完するため、平成 25 年度からドア to ドアのデマンドバス「おでかけなんじい」の実証運行を行い、平成 28 年度から本格運行に至っている。平成 27 年度の有償化以降、利用者数は順調に増加してきているが、依然として自家用車への依存度が高く、平成 28 年度に実施した市民アンケートでは、自家用車を持たない交通弱者の移動の 57%は送迎に頼っている状況であり、引き続き、交通弱者の外出支援に向けたデマンドバス「おでかけなんじい」の運行が必要な状況となっている。

### 3 地域公共交通会議の概要

#### 3.1 委員の構成

南城市地域公共交通会議は、下記の委員で構成されている。委員長は副市長が務めている。

表 1.南城市地域公共交通会議の委員

区分	所属	役職等
副市長	南城市	副市長
学識者	琉球大学工学部	准教授
沖縄総合事務局運輸部長が指名する部署の長	運輸部企画室	室長
	運輸部陸上交通課	課長
沖縄県の公共交通を担当する部署の長	沖縄県企画部交通政策課	課長
道路管理者又はその指名する者	南部国道事務所副所長	副所長
	南部土木事務所	技術総括
地元警察署において交通規制を担当する部署の長又はその指名する者	与那原警察署交通課	課長
一般旅客自動車運送事業者の組織する団体代表又はその指名する者	一般社団法人沖縄県バス協会一般社団	専務理事
	法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体代表者又はその指名する者	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行委員長
一般乗合自動車運送事業者の代表者又はその指名する者	沖縄バス株式会社運輸部	課長
	株式会社琉球バス交通業務課	次長
	東陽バス株式会社	常務取締役
市民又は利用者を代表する者	南城市老人クラブ連合会	副会長
	南城市民生委員児童委員連絡協議会	副会長
	南城市区長会	会長
その他	南城市商工会	副会長
	南城市観光協会	副会長

### 3.2 地域公共交通会議の開催状況

平成 29 年度、平成 30 年度において、地域公共交通会議は以下の概要で開催された。

表 2.平成 29 年度、30 年度における南城市地域公共交通会議の開催状況

年度	回数	開催日	主な議題
平成 29 年度	第 1 回	平成 30 年 1 月 25 日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「おでかけなんじい」の運行・利用状況について</li> <li>●先進地事例の視察（結果）について</li> <li>●小中高生アンケート調査（結果）について</li> <li>●地域公共交通再編の考え方について</li> </ul>
	第 2 回	平成 30 年 3 月 29 日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南城市地域公共交通会議設置要綱の改正について</li> <li>●「おでかけなんじい」の運行・利用状況について</li> <li>●平成 30 年度の「おでかけなんじい」の運行計画(案)について</li> <li>●地域公共交通再編の考え方について</li> </ul>
平成 30 年度	第 1 回	平成 30 年 12 月 26 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民座談会の実施結果について</li> <li>●観光客アンケート結果について</li> <li>●「おでかけなんじい」の利用状況について</li> <li>●支線バスの運行計画（案）について</li> <li>●幹線バスの運行計画（案）について</li> <li>●再編に伴う「おでかけなんじい」の運行計画（案）</li> </ul>
	第 2 回	平成 31 年 2 月 18 日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「おでかけなんじい」の運行・利用状況の報告</li> <li>●再編実施計画（素案）について</li> <li>●「おでかけなんじい」の運行計画（案）について</li> </ul>

### 3.3 地域ニーズの把握、反映状況

地域のニーズ把握や、計画等に反映するため、下記の調査やパブリックコメントを実施している。

- ・平成 29 年 7 月 小・中・高校生アンケート調査を実施
- ・平成 29 年 9 月～11 月 ビッグデータによる市民及び観光客の居住地・年代別の地域間 OD 調査を実施
- ・平成 30 年 8 月 市内 5 地区にて地域公共交通再編実施計画の素案に関する市民座談会を実施
- ・平成 30 年 9 月 市内 6 箇所の主要観光施設にて観光客アンケート調査を実施

## 4 事業の概要

平成 29 年 10 月～令和元年 9 月の運行形態は下表に示す通りである。

表 3.「おでかけなんじい」の運行形態(H29.10～R1.9)

項目	内容	
名称	おでかけなんじい	
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域及び沖縄県立向陽高等学校（八重瀬町字港川 150 番地）	
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）	
利用料金	一人一律、1 回 300 円（未就学児は無料） 12 枚綴り 3,000 円の回数券を発行（令和元年 6 月末で販売終了、9 月末まで使用可能）	
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）	
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3 は除く	
運行時間帯	平成 29 年 10 月～平成 30 年 9 月	平成 30 年 10 月～令和元年 9 月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●8～20 時（8 時台～19 時台の 1 時間ごとに運行）</li> <li>●平日 9 時台～18 時台、土曜日の 11～16 時台は 3 台/時運行</li> <li>●その他の時間帯は 2 台/時運行</li> </ul>	同左
運行車両台数	10 人乗り車両 4 台（1 台は予備車）	
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の 30 分前までに電話にて予約。ただし、8 時台は前日までの予約が必要。	
運営体制	運行業務及びオペレート業務は、地方自治法に基づく随意契約で選定。	

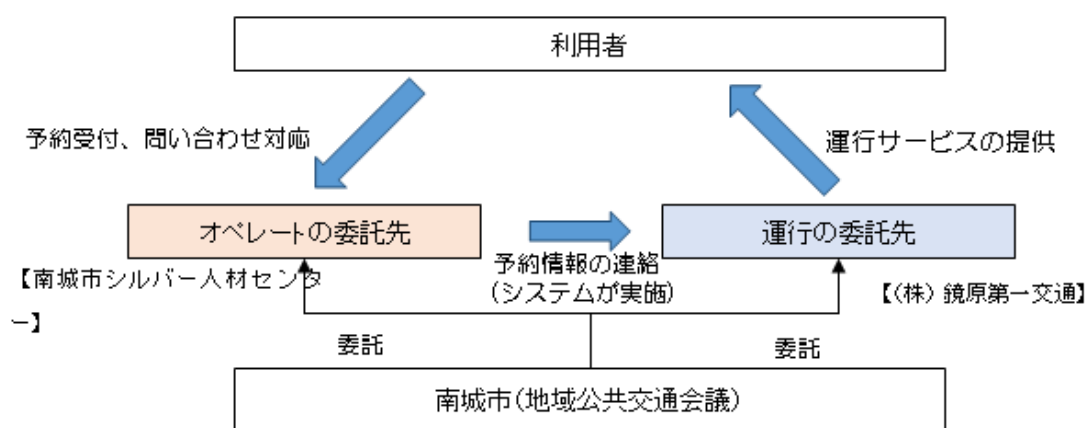




表-4.曜日別時間帯別の「おでかけなんじい」の運行便数

曜日	年度	時間帯												計
		8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
平日	H30	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	34
	R1	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	34
土曜日	H30	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	30
	R1	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	30
日祝日	H30	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	R1	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	24

表-5.収支の推移

項目	内容	平成30年度 (H29.10~H30.9)	令和元年度 (H30.10~R1.9)
収入	運賃収入	11,200千円	9,979千円
支出	人件費・燃料費等	29,348千円	29,861千円
損益		▲18,148千円	▲19,882千円

※収入、支出は実績（鏡原第一交通提供資料）

## 5 事業の定量的な目標・効果

「南城市生活交通確保維持改善計画」では、以下に示す定量的な事業の目標を掲げている。

### 平成30年度の目標・効果

表-6.平成29年6月見直し後の目標(平成30年度)

項目	現況値 (H28)	目標値			把握方法	備考
		H29	H30	H31		
登録者数	4,000人	4,480人	4,960人	5,440人	システムデータ	網形成計画では、年間480人増加を目標に設定
利用者数	84.4 人/日	84.4 人/日	84.4 人/日	84.4 人/日	〃	現状維持
1便当たりの利用者数	2.8 人/便	2.8 人/便	2.8 人/便	2.8 人/便	〃	現状維持
市民(成人)一人当たりに換算した負担額	40 円/月	40 円/月	40 円/月	40 円/月	収入と支出の実績	利用者数の目標達成時の収入と、平成28年度の費用実績から算出

### 令和元年度の目標・効果

平成29年度南城市地域公共交通会議での検討を踏まえ、現況値(2018.2現在)をベースに以下のように設定した。

表-7.平成30年6月見直し後の目標(令和元年度)

項目	現況値 (2018、 H30)	目標値			把握方法	備考
		2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)		
登録者数	4,730人	5,210人	5,690人	6,170人	システムデータ	網形成計画では、年間480人増加を目標に設定
利用者数	84.1 人/日	84.0 人/日	84.0 人/日	84.0 人/日	〃	現状維持
1便当たりの利用者数	2.7 人/便	2.7 人/便	2.7 人/便	2.7 人/便	〃	現状維持
市民(成人)一人当たりに換算した負担額	39 円/月	40 円/月	40 円/月	40 円/月	収入と支出の実績	現計画を踏襲

## 6 運行実績

### 6.1 概況

「おでかけなんじい」の平成30年度、令和元年度の運行便数、利用者数は下表の通りです。

平成29年年度から平成30年度の利用者数においては、おおむね30,000人前後で推移していたが、令和元年度においては、28,794人と、やや利用者数が減っている状況である。

表-8.「おでかけなんじい」の運行実績の概況

年度	運行便数	利用者数
平成28年度 (H28.4~H28.9)	5,402 便	15,132 人
平成29年度 (H28.10~H29.9)	11,126 便	30,949 人
平成30年度 (H29.10~H30.9)	10,983 便	29,929 人
令和元年度 (H30.10~R1.9)	11,003 便	28,794 人



## 6.2 日当たりの運行便数

「おでかけなんじい」の運行便数は、平成30年度は、概ね31便/日で安定していたが、令和元年度は28～32便/日となっており、やや減少傾向となっている。

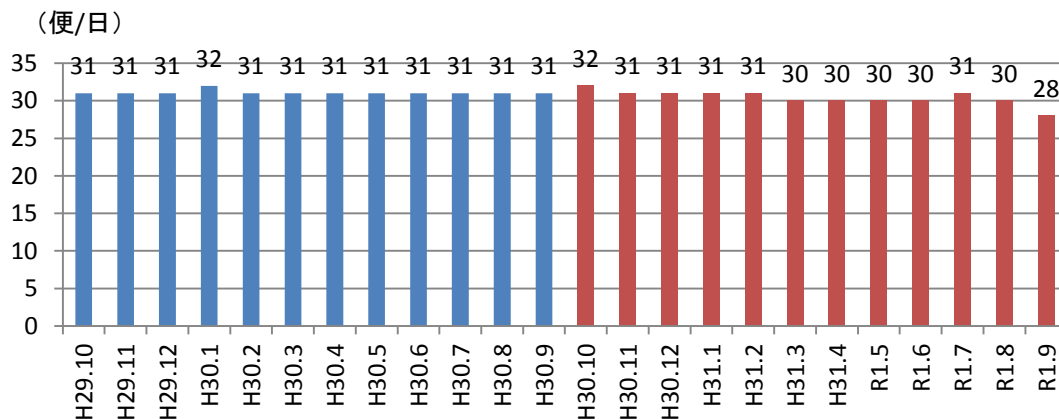


図-2. 「おでかけなんじい」の日別運行状況の推移

## 6.3 日当たりの利用者数

「おでかけなんじい」の利用者数は、月による変動はみられるものの、80人/日前後で推移している。

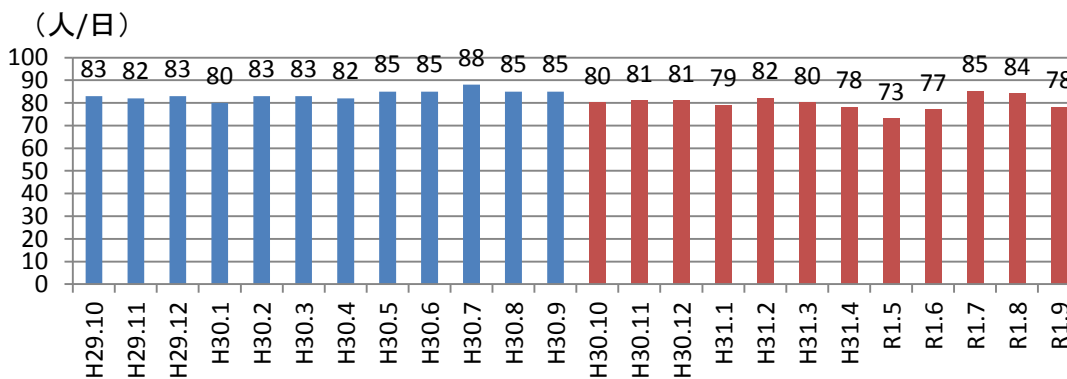


図-3. 「おでかけなんじい」の日別利用者数の推移

## 7 事業実施の適切性

平成30年度、令和元年度ともに運行計画にもとづき、事業は適切に実施された。

## 8 目標・効果達成状況

平成30年度及び令和元年度に作成した生活交通確保維持改善計画にもとづき、目標達成状況を評価した。

### 8.1 登録者数

平成30年度（目標4,960人）及び令和元年度（目標5,210人）において、それぞれ登録者数は「5,101人」及び「5,619人」と目標を超える数字となっており、目標を達成している。

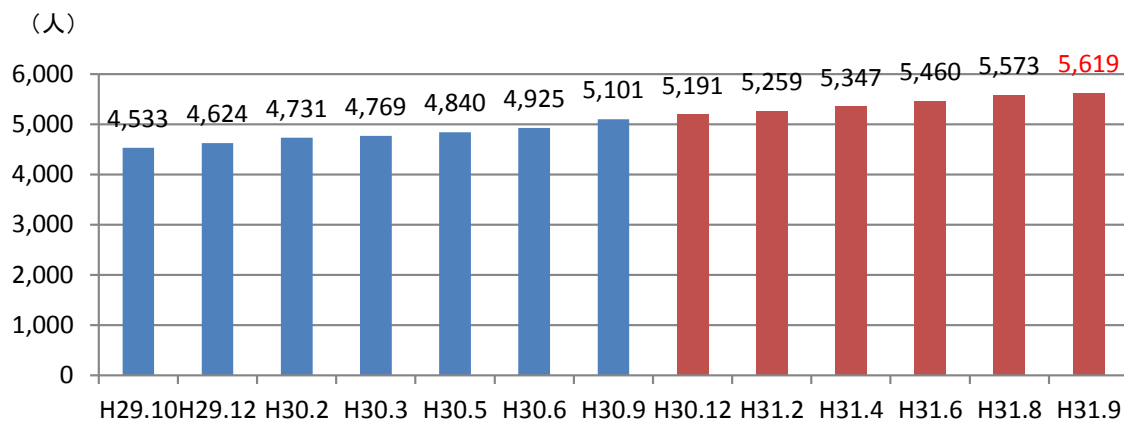


図-4. 「おでかけなんじい」の登録者数の推移

## 8.2 利用者数

平成30年度（目標 84.4 人/日）及び令和元年度（目標 84.0 人/日）の利用者数において、平成30年度の1日平均利用者数が83.6人/日、令和元年度79.9人/日となっており、いずれも目標をやや下回った。これまでは可能な限り利用していただくために、できるだけ予約を受け付けるように対応していたが、次便で遅れが生じるケースも出てきたため、余裕をもって受け付けるように運用面で改善を図ったため、利用者数が減少した。

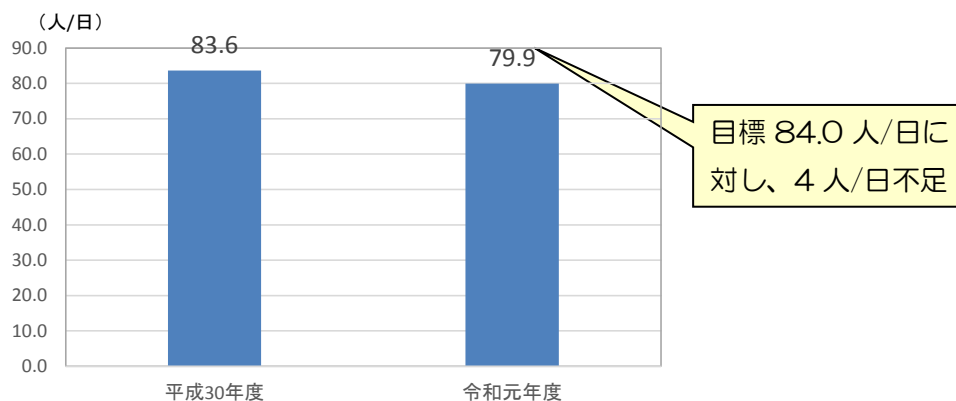


図-5. 「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移

### 8.3 1 便当たりの利用者数

平成 30 年度（目標 2.8 人/便）及び令和元年度（目標 2.7 人/便）の 1 便当たりの利用者数は、いずれも目標をやや下回った。

令和元年度は、28,794 人/年 ÷ 11,003 便/年 = 2.6 人/便と目標を「0.1 人/便」下回る利用者数となっている。

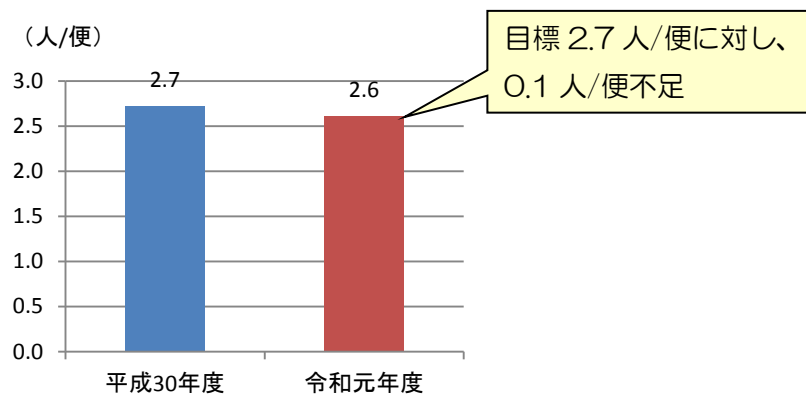


図-6. 「おでかけなんじい」の 1 便当たりの利用者数

### 8.4 市民(成人)一人当たりに換算した負担額

平成 30 年度の市民（成人）一人当たりに換算した負担額は、45 円/月、令和元年度は 49 円/月と目標（40 円/月）をわずかに達成できていない。

表 9. 「おでかけなんじい」の市民一人当たりに換算した負担額

	支出	収入	負担額	成人人口 (各年.3 月)	成人一人当たり の負担額
平成 30 年度	29,348 千円	11,200 千円	18,148 千円	33,903 人	45 円/月
令和元年度	29,861 千円	9,979 千円	19,882 千円	34,130 人	49 円/月

※成人人口は住民基本台帳より

## 8.5 目標達成状況のまとめ

登録者数は、平成30年度、令和元年度ともに達成できたが、その他の項目では、平成30年度及び令和元年度でわずかであるが目標に達しなかった。運用面での予約受付方法の改善により、利用者数がやや減ったことが原因と考えられるが、デマンドの運行については、計画通り事業は適切に実施された。今後は、現況値を踏まえ、目標の見直しを検討する。

表 10. 平成30年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(H28)	H30 目標値	H30 実績値	達成状況
登録者数	4,000人	4,960人	5,101人	○
利用者数	84.4人/日	84.4人/日	83.6人/日	×
1便当たりの利用者数	2.8人/便	2.8人/便	2.7人/便	×
市民(成人)一人当たり に換算した負担額	39円/月	40円/月	45円/月	×

※現況値はH29.2時点

表 11 .令和元年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(H30)	R1 目標値	R1 実績値	達成状況
登録者数	4,730人	5,210人	5,619人	○
利用者数	84.1人/日	84.0人/日	79.9人/日	×
1便当たりの利用者数	2.7人/便	2.7人/便	2.6人/便	×
市民(成人)一人当たり に換算した負担額	39円/月	40円/月	49円/月	×

※現況値はH30.2時点

## 9 今後の改善点

「おでかけなんじい」の利用者数はほぼ飽和状態に達しており、現状では、利用者数の増加は図りづらい状況となっている。

一方で、本市では令和元年9月10日付で認定を受けた「南城市地域公共交通再編実施計画」にもとづき、令和元年10月1日より交通再編を実施している。交通再編により新たにNバス（市内線バス）の運行を開始しするとともに、「おでかけなんじい」運賃の改定（75歳以上は300円から200円に値下げ、74歳以下は300円から500円に値上げ）により、Nバス利用の促進を図りながら、「おでかけなんじい」の飽和状態の解消を目指している。

また、現状の乗り合い率（2.6人/便）を踏まえ、令和元年12月からは10人乗りから5人乗りへと車両の小型化を行っており、運行効率の向上とともに、燃料費や車両リース代などで年間約500万円の経費節減を図っている。

今後は、主にNバスが市内の移動手段を担い、「おでかけなんじい」はNバスが通らない交通空白地帯や交通弱者（高齢者等）の移動手段として、公共交通を補完する役割を担っていく。



図-7. 小型化した「おでかけなんじい」の車両



図-8. 新たに導入したNバス(市内線)の車両